

# 安全だより

～気のゆるみ 慣れと油断が事故のもと～

○発行日：令和3(2021)年6月10日

○発行者：公益社団法人

伊勢原市シルバー人材センター  
安全管理委員会

〒259-1131 伊勢原市伊勢原2丁目7番31号

電話:0463-92-8801 FAX:0463-92-0008

E-mail:isehara@sjc.ne.jp

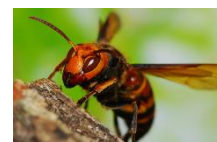
## 蜂に注意を！

草刈り作業中の会員さんが蜂（種類は不明）に刺され、アナフィラキシーショックが原因で亡くなるといった事故が発生しました。

蜂は、他の多くの虫と同じように、春から秋がその活動期間です。

刺されて15分ほどで「全身のじんましん、呼吸困難、意識障害」などのアレルギー反応が起こることもあり、最悪の場合は、死に至ることもあります。

蜂に刺されたら、迷わずに救急車を呼び、一刻も早く医療機関を受診しましょう！



1. 手元に**殺虫剤**を必ず用意しておく。
2. 作業前に長い棒などで**蜂がいないか確認**する。(安全な服装・装備で)
3. 刺されたら、**迷わず救急車**を呼ぶ。

### ★蜂に刺されたときの応急手当

次の手順で処置を行い、安静にします。  
途中で様子が少しでもおかしいと思ったら、直ちに医療機関を受診してください。

1. 刺されたらその現場からすぐ数十メートル離れる。(巣から離れる)
2. 刺された傷口を流水でよく洗い流す。蜂の針が残っている場合は、指でつまんで毒液を再注入しないようにそっと抜く。
3. 爪などで傷口周囲を圧迫し、毒液をしぼり出す。(蜂の毒は水に溶けやすいので、傷口から毒液をしぼり出すように、もみながら流水にさらすと効果的)
4. 抗ヒスタミン剤を含むステロイド軟膏などがあれば塗布する。
5. 濡れたタオル等で冷やし、安静にする。

**過去に蜂に刺された経験がある方や、具合や様子がおかしいと感じたら、直ちに医療機関を受診するようにしましょう！**



### 《アナフィラキシーショックとは》

アナフィラキシーショックは、蜂の毒や、ある種の薬剤、食物など、アレルギーを起こす物質に体が**曝露**される(さらされる)ことで発症します。

一度アナフィラキシーショックを起こしたことがある方は、再度同じ原因物質に曝露されることで非常に重い症状を起こします。

原因となる物質に曝露されてからアナフィラキシーショックに至るまでの時間は、原因物質によって異なります。注射薬や蜂毒によるアナフィラキシーショックの経過は特に早い傾向があり、原因薬剤を注射されたり蜂に刺されたりしてから数分の経過で心停止に至ることもあります。

出典：Medical Note

▽事故発生状況（シルバー保険適用事故のみ掲載）

種別	令和元年度	令和2年度
傷害	6件 ①ゴミ出し時後ろ向きでの段差つまずき転倒骨盤骨折1件 ②段差つまずき転倒骨折1件 ③段差つまずき転倒脱臼1件 ④剪定時脚立落下骨折1件 ⑤強風時バイク転倒骨折1件 ⑥刈払機接触負傷1件	5件 ①伐根時につるはしが外れ敷石に腰を打ちつけ圧迫骨折1件 ②軽トラ荷台で剪定枝等の積込作業中に転落し肋骨10本骨折1件 ③犬にふくらはぎを咬まれる1件 ④車が横転しハンドルで太もも打撲1件 ⑤自転車で転倒し右手首骨折1件
	7件 ①粗大ゴミ搬出時床損傷1件 ②刈払機での飛石による車窓破損2件 ③刈払機での現場事務所損傷1件 ④駐車車両ボンネット損傷1件 ⑤塗装作業時の駐車車両へのペンキ飛ばし1件 ⑥刈払機でのゴルフ場水道管破損1件	6件 ①刈払機での飛石による車窓破損2件 ②刈払機での機械警備用配線切断2件 ③刈払機でのゴルフ場水道管破損1件 ④障子取り外し時の敷居破損1件
計	13件	11件

★飛散防止ネットは重要！

刈払機の使用中に、飛んだ石で車両を傷つける事故が絶えません。

刈払機を使用する際には、歩行者や通行車両など周りに十分注意を払うことはもとより、飛散防止ネットの使用を徹底しましょう。



★つまずきや転倒事故に要注意！

つまずきは、歩いている際にわずかな段差、また、階段の蹴上を超えるために必要な高さまでつま先を上げられなかった時に発生します。

その際、つま先を段差や階段などにぶつけるなど、転倒による骨折などの危険性が高くなります。

就業前の適度な体操やストレッチを心がけ、何よりも、不安定な状態での作業はやめましょう！



★新型コロナウイルス予防対策の再強化を！

変異株の感染力の強さもあいまって、新型コロナウイルス感染「第4波」が今までの波をはるかに上回るスピードで拡大し、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が延長されるなど、ワクチン接種が進められているものの、収束に向かっているとは言い難い状況にあります。

あらためて「うつらない！うつさない！」を念頭に置き、基本的な感染予防対策を徹底しましょう。



【編集後記】

我々の仲間が草刈り作業中に蜂に刺され、アナフィラキシーショックが原因で亡くなるといった事故が発生しました。ご家族によると、過去に一度蜂に刺された経験があるとのことでした。

このことを忘れることなく、常に安全を心がけて仕事に取り組むべきと、あらためて感じた次第です。

《安全管理委員会》

委員長 海老澤 昇  
副委員長 菊地 清秀

委員 川上 紘光  
三須 好夫  
吉田 陸雄  
井部 至  
宇佐 美明  
河毛 周之